

ニュースから考える



モータースポーツには「世界三大レース」と呼ばれるものがあります。「F1 モナコグランプリ」と「ル・マン 24 時間レース」はテレビ等でニュース

で大きく取り上げられるので皆さんもご存知でしょう。

さて、5月28日に素晴らしいニュースが流れて来ました。三大レースのもうひとつ「インディ 500」に日本人レーサー佐藤琢磨(40歳)さんが日本人として初めて歴史的な勝利をものにしました。F1で一世を風靡したホンダエンジンとの組み合わせ、まさにメードインジャパンによる快挙です。

佐藤選手は2002年にホンダのエンジンでF1に華々しくデビュー、しかし残念ながら日本チームの撤退により3位を最高に2008年にドライバーシートを喪失し転身から9年、苦労が実り美酒ならぬ・ミルクで祝福されたのです。

(インディではシャンパンの代わりにミルクで祝福されます。)

良い事、悪い事に一喜一憂しますが、何が良い事か、何が悪い事かは数年経たないと判らないものですね…。いずれにしても佐藤選手の歴史的快挙は日本人にとって励みになります。

1分でわかる業務カイゼン

「1964年」という転換期

わが国にとって1964年は大きな歴史の分岐点です。たとえば・「東京オリンピックの開催」、「新幹線の開業」、意外なものでは「日本人の海外観光渡航の自由化」、坂本九さんの「明日が



あるさ」がヒットしたのもこの年です。先ほど紹介したホンダがF1参戦したのも1964年(翌年には初優勝)です。

明るい未来が待っていると日本人全員が感じ、まさに1964年は「夢と希望」の始まりの年でした。

「2020年」という転換期

東京オリンピックから56年・ふたたびオリンピックが2020年に開催されます。しかし、明るい話題の筈がなぜか会場はどうする・財政負担は誰がする・など暗いニュースが流れます。

今年は2017年なので後3年でオリンピックです。ここでプラス思考のお話をさせていただきます。良く実感する事があります。それは、団塊の世代はしっかり財産を残しているという事実です。彼らは1964年という転換期に上手く波に乗って事業を成功させたのです。

つまり、団塊の世代に続いて50数年ぶりに私たちにチャンスが訪れているのです。是非、「夢と希望」の2020年にしましょう。

「まぐれはそうそう続かない」

世の中の流れに乗ってまぐれで事業に成功する人もいるでしょうが・ギャンブル同様、まぐれで勝ち続ける事はないのです。

では、どうしたら良いのでしょうか・ある「経営研究会」のお手伝いをさせて頂いているのでせっかくの機会なのでノウハウの一部をご紹介します。

プログラムでは、まず会社の歴史や創業時を振り返ります。そして「会社の存在意義を経営理念」という言葉にして社員さんに理解してもらいます。次に

「経営理念」に基づく「経営方針・戦略」を必ず社員さんと共有し実行に移す手順です。



つまり、社員さんと経営者が同じ目的のために行動する組織を作る事がその研究会での目標なのです。いつも「組織」の大切さをお話ししていますが「組織」は経営者と社員さんが目的を共有した状態を言います。厳しい言い方をすると目的を共有していない社員さんは組織のメンバーではないのです。

スポーツで考えると良く分かると思いますが「監督・コーチ」、「選手」、「ファン」が一体となって勝利を目指した場合、そのチームは良い結果を残します。一方、監督批判やファンが選手にブーイングされるようなバラバラのチームは成績が低迷します。

経営者の皆さんは経営に対する信念をお持ちです。社員さんに会社が目指すべきものを色々な方法で話し、そしてより良い組織を作ってください。

事務所からのお知らせ

会社の健康診断として経営分析を行っていますので担当者にお尋ね下さい。また、お知り合いの経営者でお悩みの方がおられましたらお気軽にご相談ください。

今月の経営のヒント : 「経営理念」をお持ちですか？



今月のことば

人事を尽くして天命を待つ

なしうるかぎりの力をつくし、静かに起こってくる事態を待つ。
それは期待どおりのことであるかもしれないし、期待にそむくことであるかもしれない。
うろたえず、あわてず、心静かにその事態を迎え、そのなかからまた次の新しい道がひらけてくる。

(南宋初期の中国の儒学者である胡寅の『讀史管見』に対する 松下幸之助氏 の解釈)

編集後記:

私事ですが「夢と希望」の1964年生まれです。自分の誕生年にオリンピック記念硬貨が発行された事をきっかけに家族が生まれた年の硬貨をネットオークションで買いそろえました。

一方、最近一万円札10枚が12万円の値段でネット販売され問題となりました。なぜこのような不可思議な取引が成立するのかと言うとキャッシングできない人がショッピング枠で現金を手に入れているのです。

世の中には良い知恵もあるが、悪い知恵もあるという一例ですね。(寿)

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合 (TKCが証明するデータを使用しています)

最近1年間: 77.8%

(国税局の発表によると法人の黒字割合は32.1%(27年4月~28年3月)です)